

湖南省都市計画マスタープラン第1回策定委員会 議事要旨

日 時：令和7年8月18日(月)14:00～

場 所：共同福祉施設 大ホール

開会

委員の紹介、委員長及び副委員長の選出

(委員長として松島格也委員(京都大学 防災研究所 特定教授)、副委員長として高田薫委員(市民代表)を選出)

協議事項「湖南省都市計画マスタープランの改定」

- ・都市計画マスタープランは市民の意見を聞いて策定する計画である。市民の声の反映についてはどのように考えているのか。
⇒パブリックコメントで意見を聞く機会はあるが、策定過程でも意見を聞くことが重要だと考えており、若い人や子育て世代を対象としたワークショップの開催や、地域まちづくり協議会に対するまちづくりの取組や課題のヒアリングを実施したいと考えている。
まちづくり協議会へのヒアリングについては、今後を見据えた中でまずは事務局で検討した上で、意見の聞き取りの方法を含めて検討したい。(事務局)
- ・現在庁舎の再編が進められているが、都市計画マスタープランも同じような周辺を含めた土地の使い方の計画である。これら相互の関連付けをどのように考えているのか。
- ・都市計画マスタープランとしては、今後10年間でどのような都市になっているか想定しておく必要がある。その中で庁舎がどのようにしているのかについては情報提供をお願いしたい。
- ・マスタープランでは予算上の裏付けはなく、方向性が見えない。行政機能の整備計画と都市計画マスタープランの連携、リンク付けをしっかりと欲しい。ワークショップもいろいろと実施しているが、同じような話を何度もしているので、横の連携をとってこれまでの市民の意見を含めて計画の策定を進めて欲しい。
- ・公共交通関係、JR草津線の利用拡大、国道の拡幅など様々な問題があるが、マスタープランではこれらをすべて吸い上げて計画がつくられるということで良いか。パブリックコメントが1月～2月に予定されているが、様々な問題、課題の対応をどのように整理していくのか、イメージが湧きにくい。
⇒今のスケジュールでは時間的に厳しいが、皆様の意見を聞きながら、公共交通、農業等の重要なテーマについては議論を深めていきたい。(事務局)
- ・これは湖南省の計画であるが、周辺の栗東市、甲賀市、野洲市等との関連性がどうなっているのか分からない。何か考えがあれば教えていただきたい。
- ⇒広域的にまちづくりを考える必要があるという意識は常に持っている。特に交通、人の流れについては重要なテーマと考えている。(事務局)
- ・東海道沿いも企業が撤退して空き地、空き家だらけである。費用の問題はあると思うが、市が空き地利用に介入して、統一感のあるまちづくりを進めることはできないのか。
- ⇒交通量が国道1号に移行し県道4号の役割が変わってきた。新たな土地利用をどうするのか、駅周辺を含めて、特性を踏まえて役割や活用を考えていきたい。(事務局)
- ・移手段の確保はまちづくりに欠かせないが、バスは旧道を走るのが基本であり、定時性確保が難しく、利用者が離れていく。道路整備の促進をお願いしたい。
- ・教科書的な話になるが、通過交通と生活交通を分ける必要があるが、新たなバイパスににぎわい

的なものを誘導するののかについては選択の余地がある。また、通りやすいという事とにぎわいの創出とはトレードオフのようなところもあり、総合的に考える必要がある。

- ・空き地だけでなく、耕作放棄地も増えている。農地は多面的な機能を発揮しているが、圃場整備されていない農地については新たな土地利用方針を定めてはどうかと思う。
- ・国道1号は朝夕に混雑している。すでに用地が確保されており、早急に工事を進めるべきであり、都市マスでも最重要課題として取り上げるべきである。
- ・湖南省には魅力がなく、特に中心市街地がない。3駅の駅舎整備は終わったが、駅周辺のまちづくりが進んでいない。特に甲西駅周辺のまちづくりを推進すべきである。

協議事項「まちづくりの評価と課題」

- ・駅周辺のまちづくりについては、石部駅前にはにぎわいを作る場所がない。甲西駅前には田んぼを活用すればできるかもしれないが、少し具体的なイメージが必要ではないか。
- ⇒駅を中心にとは言いながらも土地利用等活用方策には課題があるが、今後人口が減少する中で今までのような車中心社会で良いのかを考えていく必要がある。都市計画の立場からは3駅中心のまちづくりを進めたい。各駅にはそれぞれ異なった状況があるため、それらを踏まえて個別に検討したい。(事務局)
- ・住み続けたい、住んで良かったというまちになるために、ハードとソフト両面から進める必要がある。
 - ・にぎわいについても人によって様々なイメージがあるため、計画の前提となる湖南省のにぎわいのイメージを共有する必要がある。
 - ・人口減少の中で再自然化、再野生化というか、言い方はきついがトリアージのようなことを考える必要がある。切り捨てるのではなく作る、広げるということから畳む、返すということを、バランスを見ながら進めていく必要がある。
 - ・市街化区域の拡大という話もあったが、これから人口減少局面に入り、原則として、これ以上宅地を増やすよりも現在の市街地の密度を高めていくことが重要であり、空き家、空き地等も活用していく必要がある。
 - ・JR駅周辺の機能強化を進めるのも必要であるが、車社会の現実を踏まえて共存することを考えていく必要がある。

その他

(次回委員会は10月頃に開催予定。)

閉会